…紙面の最も廣き新聞紙なり
時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり
時事新報社電話番號…

（時事）新報

明治廿七年四月廿八日 土曜日
舊曆甲午三月廿三日（庚子）
日出午前四時五十四分 日入午後六時二十三分
月出午前零時五十九分 月入午前十時四十七分
滿潮午前十一時二十二分 午後十一時五十一分
（西曆一千八百九十四年）
年始より百十八日 年末まで二百四十七日

…附錄

…世人に紹介し且は
…に於て此道に名あ
…十二箇月を制
…美麗の彩色石版
…購讀者に配布する
…に至て終るの趣向
…し世人の大喝采を

…神秘

…時に首を廻して
…迫る此書に對す
…聲細々たる響あ

…錢（東京市外は
…は臨時に紙數を
…の申込は來る五

…詳細なる商況物

…此他後に
…料を要す）
…錢〇三箇月 前
…八拾五錢〇一箇
…此他大祭祝日年
…貨を以て返戻す
…以て又廣告料の
…知被下度候

…釜山、元山津
金拾三錢
…若くは加奈陀を
金六拾錢
…嶋
金三拾錢
…、太平洋諸嶋、濠
金六拾五錢
金三拾五錢

…以上 七日以上
…行迄
…錢 十錢五厘

…定價の通り申受
…定價以下にて引受
…時は直ちに其取
…事もあるべき旨

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を揭ぐるみと尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

開明主義と保守主義の消長

維新革命の先鋒として幕府を攻め倒したる攘夷論も文明改進の勢には敵すべくもあらず次第に屛息して一時全く其形影を收るに至りしが其後死灰再燃、或は國粹論となり或は雜居尙早論となり或は條約勵行論となりて國運の進步を妨るに至りしは何故なるやと云ふに開明派の人々が一時の方便として代る〳〵守舊論者を利用したるの結果と云はざるを得ず今其次第を語らんに明治十三四年の頃國會開設論なるもの四方に勃興して何となく不穩の樣子なりしかば當局者も其始末に困却し或は勢に乘じて國會を開設し以て治安を維持すべしと云ふもあれば或は民權論を征伐すべしと云ふもありて議論紛々の末、遂に征伐論の勝利となりて大隈氏は冠を掛るに至りぬ扨て征伐論と決したる所にて如何にして之を征伐せしかと云ふに別に名案もなかりしと見え一たび屛息したる古學者の類を呼び起し高天原主義と儒敎主義とを混和して古めかしき議論を唱へしめ以て民權論の氣焰を殺がんとしたり文部の邊に古風なる人物を採用し儒敎主義を再興したるも此時にして帝政黨なるものを組織せしめ神主や時勢後れの頑固連を驅り集め民權自由の說を挫かしめんとしたるも此時なり、明治日報など云へる改明主義反對の新聞紙を興したるも此時にして漢書類の再び世に出で始めたるも亦此時なり、即ち開明派が守舊論を利用したる第一回にして今日排外論の氣焰中々に盛にして動もすれば文明の進步を妨げんとするの實あるは此政略の賜と云はざるを得ず次に守舊論を利用して其勢力を助長したるは明治二十二年條約改正騷ぎの時にして此時に於ては開明派の一部分が大隈外務大臣の改正案を不可として陽に論じ陰に妨ると同時に保守論者は好機失ふべからずとて蹶起となりて反對論を唱へしかば開明派の人人も平生は相反目するにも拘はらず直ちに相提携して頻りに之を鼓舞奬勵するのみならず其口調をさへ保守論者に似せ二十餘年前に流行したる攘夷論者の筆法を以て盛に排外的精神を發揚したるは當時の新聞紙に徵しても事明白なるべし蓋し開明派は條約改正を打ち破るに急にして後害を思ふに遑なく何人にても苟も改正に不同意なるものは之を友として一時の利用に供したるみとならんと雖も今日より之を思へば保守論を助長して開明主義の進步を妨害したるものにて自家永日の利害の爲めには至極の不得策として惜まざるを得ず是れ即ち開明派の人々が保守論者を利用したる第二回にして而して今や第三回の例として開明派の一部分が保守論者を提携し相共に條約勵行論など唱道して盛に排外の空氣を釀造しつゝあるは蓋し亦一時の政略にもて其本意にはあらざる可しと雖もこれが爲めに培養せられたる保守論は異日開明派を反噬すべきは知れ切つたる事なり明治十四五年の頃一時の方便として培養したる保守論は今や其培養者を反噬し明治二十二年に皷舞奬勵したる排外主義は今や其皷舞者に及向ひつゝあるも亦偶然に非ざるなり左れば今日開明主義なる某政黨の友として利用する所の保守排外論も何日に出るものは爾に返りて何日か一度は必ず其利用者の政略を妨害して之を擠すみともある可きは明白にして我輩の餘所ながら感服せざる所、否な世運の進步の爲めに深く悲む所なりと云ふは外ならず我日本の如く文明の中心點より遠く離れて世界の片田舍に居を占るものが文明の諸國と共に文明の競爭せんには田舍漢の國自慢を學ばずして虛心平氣に彼の事物を觀察し苟も採て利あり學んで益ありと思はるゝ所のものは何國の產たるを問はず遠慮なく之を採り之を學んで我進步の用に資するの覺悟なかる可らず我開國三十餘年來長足の進步を以て西洋人を驚かしたる其由來を尋れば唯大膽に開國主義を取て海外の文明を輸入するに狐疑せざりしが故のみ支那帝國の廣大なるみと彼の如くにして世界各國人に輕蔑せらるゝみと彼の如くなるは他なし守舊排外の氣風盛にして文明の事物を容るゝの勇なきに坐するものなり我日本に於ても維新以來舊時の鎖國風に安んじて外人に對し外物を視るみと今日の如く無情刻薄にてありしならんには文明の進步に一段の後れを取りしは論者も亦疑はざる所なるべし左れば開明派の人々が一時の方便として保守論を利用する利は則ち利なるに似たれども少しく前後を考れば自家の爲め又國の爲めに他日の害を遺す可きは明白にして之を譬へば政界の運動に所謂壯士を使用するが如し選擧の時などに反對派を脅迫するの道具としては壯士の暴行も至極便利なるに似たれども毎度みれを利用するの結果は壯士の勢力を盛ならしめて遂に彼等の爲めに利用せらるゝに至るの例なきに非ず現に或る選擧區に於ては多年來壯士の團體が選擧の事に關係するよりして其團體の勢力甚だ强く苟も地方の有力者にして候補を爭はんには先づ錢を出して團體の承諾を經ざる可らず其承諾を經て幸に當撰すれば歲費八百圓は耳を揃へて之に奉納し我身も亦團體の事務所に出入して少年輩と共に雜居眠食せざる可らず全く壯士の奴隷と云ふも可なり又或る東京の大人は議會開場の期となれば或は保養と稱し或は漫遊と披露して京坂地方などへ出掛るの常なり其次第は昔て大人が全盛のとき頻りに壯士の親分を近づけ之を道具に使ひたるの因果として議會の期となれば兼て近づけたる壯士輩が續々出京し例の大家に出入して橫風に眠食せんとする其煩累を避るが爲めなりと云ふ奇觀と云ふべし開明派の論者が前後の思慮もなく屢々保守論者を利用するの結果は主客顚倒、遂に斯くの如き始末に立ち至るみとなきを期すべからず我輩の氣の毒に思ふ所なり

雜報

○農作物概況 昨今の農作物就中麥作に付ては人種々の見込を立て或は豐作なりとも云ひ減作なりとも稱す今農事試驗場及大坂、石川、宮城、廣嶋、德嶋、熊本六支場にて本月二十日（穀雨）に調査したるもの及びその附近農家の作物概況を揭げて參考に供す亦以て全國の農況如何を察するの一資料とならん歟

●農事試驗場報告 本年の麥作は處により多少の優劣ありと雖ども之を要するに三月下旬に至り氣候溫暖にして且つ降雨連日に亘りしを以て大小麥は稍や過育のものあり近傍農家に於ては倒靡を避けんが爲め其葉を刈拂ひたるも尠からざりしが幸に其後冷氣を催し生育適度に復し株張亦善良にして能く揃ひ甚だ好況を呈せり且つ大麥裸麥の出穗は昨年に比すれば殆んど一週間早かりし

本場の近傍は濕田多く農家は殆んど二毛作の利を知るものなく田は冬期耕鋤せずして水を停滯せしむるを常とせり然れども斯る地も少しく注意せば槪ね二毛作をなし得ざる所なきを以て本場に於ては數年來二毛作の試驗をなし其容易にして且つ利益あるみとを實際に示せしかば近來農家漸く之を悟り本年の如きは麥及び油菜を二毛作となせしもの尠からず

●大坂支場報告 當地方近傍に於ては畑作は麥八分、蠶豆一分半、餘は油菜にして水田二毛作は麥五分、油菜三分、蠶豆二分の割合なり麥は目下七分通り出穗あり作柄は昨年に優ると云ふ油菜は本月上中旬の交風雨の害を被りたる爲め減收一割に及びたりと雖尙昨年よりは好況にして昨今花は二分通り殘れり蠶豆は昨年と同況にして目下花滿開中なり

●宮城支場報告 近傍普通農家の栽培せる作物は大麥殆んど其全部を占め裸麥小麥は稀れに見る所なり而して播種期其當を得たるものは一尺五寸に成長し發育旺盛なり其晚れたるものは漸く四五寸內外にして草立良好ならずと雖之を要するに本年の麥作は一般に生育の狀況頗る佳良にして今後氣候其當を得ば平年作より優るも劣るみとなからん但し水田二毛作裸麥は稻刈株後降雨連日に亘り播種期晚れたる爲め發育善良ならず油菜は畑に直播せしものは生育頗る佳良なるも稀れに二毛作として水田に移植せしものは其發育旺盛なりとす

●石川支場報告 當支場近村は水田のみにして二毛作として仕付あるものは大麥、油菜、及紫雲英の三種のみ紫雲英は目下點々開花せり而して今年は積雪少かりしため孰れの作物も腐敗等の憂なく例年に比して好況なり

●廣嶋支場報告 當支場近傍重要冬作物は裸麥、藺の二種にして油菜及小麥は只僅かに栽培するものあるのみ裸麥は生育繁茂の狀甚だ宜しく目下の景況によれば豐收なるべし藺作も別に異狀なく盛んに株張中なり

●德嶋支場報告 德嶋支場所在地方の麥作は殆んど全く裸麥にして目下抽穗を始め成育槪して可なり油菜は近時專ら朝鮮種を栽ゆ稍や濕潤に傾ける土地に於ては成育甚だ良し、藍は播種期及種類の異なるに隨て成育の程度に大差ありと雖靑小千本種を適期に播種せしものは大約三寸許に成育す赤小千本、百貫の如きは又更に生長の度速かなり又播種期の早きものは丈け六七寸に達し已に移植せしもの…
にして未だ驟險を行ひ…
べき吉野川沿岸地方亦…

●熊本支場報告 支場近…
て大麥作は絶えて見ざ…
唯一種位なり裸麥は點…
小麥は未だ穗孕みせず…
油菜は大抵落花し終れ…
の有樣なり

○上海商況
繰綿 は引續き居据り…
俵（六十斤入）の手合出…
注文皆無の姿にて兎角…
別二牌及び厦門二牌の…
も應じ兼ぬる有樣なり
器械繰 は絶えず英商…
に於ける二三清商二三…
し爲め目先氣强き傾に…
の七百俵に達せり
通州手繰及び器械繰…
を見込み清商意外に買…
各棉花商は今後の騰貴…
械繰等合せて一千俵の…
刻昆布 は其の後變動…
場の在荷は大抵賣買濟…
函館ものは荷薄の事と…
鯣 は景氣稍持直り寄…
手に九州物二千斤許到…
手合出來したる旁々目…
は差して變動を來さず
鱶 は一時需用者を…
該地に於ける注文途切…
低落の姿なり
蝙蝠傘 は季節に向ひ…
て不活潑にして大に安…
まじき商況なり

○北海の鰊魚 本…
去る十七日江差發の通…
は十萬石の收穫ありし…
にて之に次で瀬棚近傍…
増毛邊の奥地も相應に…
谷近傍は未だ明白なら…
分にては平均して先づ…

○鰮の大漁 近日…
獵あり昨今陸續東京に…
して筍の呼聲と相應和…

○鰆と數ノ子の走…
し由なるが一昨日々本…
子の走りは未だ直合定…
に付き三圓內外數ノ子…
りと云ふ

○中幕の差替 來…
と春木座を掛持ちに出…
中幕の上に義經を、大…
の下、信孝の馬切を…
記す市川八百藏も右兩…
目の十兵衛と幸兵衛を…
驅け着ける都合なりそ…